

県の各種計画における位置づけ

1 「みえ県民力ビジョン」

2 「三重の文化振興方針」(H20.3)

事業連携の視点、機能連携の視点、施設・設備・ノウハウ
の共有化等に言及

3 「第3次三重県生涯学習振興基本計画」

文化交流ゾーンのめざす姿や、重点的な取組内容等に言及

1 「みえ県民力ビジョン」における位置付け

- ・ 三重県では、社会経済情勢の変化や東日本大震災の発生などによる県民ニーズの変化に適切に対応し、県民の皆さんと共に新しい三重づくりに取り組むための指針として、平成24年度から概ね10年先を見据えた長期の戦略計画である「みえ県民力ビジョン」を策定しています。また、「みえ県民力ビジョン」を実現するための、4年間の中期の計画である「みえ県民力ビジョン・行動計画」も同時に策定しています。
- ・ 「みえ県民力ビジョン・行動計画」では、「政策展開の基本方向(3つの柱)」のうち『創る』～人と地域の夢や希望を実感できるために」の中に、政策『文化と学び』～地域の誇りと心の豊かさを育む社会～」を位置づけています。
- ・ この政策の中の施策「文化の振興」では、文化交流ゾーンについて、「変革の視点」や「取組方向」の中で次のように述べています。

<変革の視点>

新県立博物館の開館に向け、総合文化センター周辺の各施設が、さまざまな主体と連携し、中核的な拠点(文化交流ゾーン)を形成することにより、県民の皆さんが、心の豊かさと安らぎを感じ、知的な刺激を受けるよう文化に触れる機会を多く提供します。

<取組方向> … 関係分のみ

県民の皆さんが文化交流ゾーンの機能を意識し十分に活用できるよう、魅力的な情報発信および環境整備等に取り組みます。



Ⅱ『創る』

人と地域の夢や希望を実感できるために

政策 Ⅱ-1

人権の尊重と多様性を認め合う社会

～一人ひとりが尊重され、誰もが参画できる社会～

- | | | |
|-------|-----|---------------------|
| | 211 | 人権が尊重される社会づくり |
| | 212 | 男女共同参画の社会づくり |
| | 213 | 多文化共生社会づくり |
| | 214 | NPOの参画による「協創」の社会づくり |

政策 Ⅱ-2

教育の充実

～一人ひとりの個性と能力を育む教育～

- | | | |
|-------|-----|------------------------|
| | 221 | 学力の向上 |
| | 222 | 地域に開かれた学校づくり |
| | 223 | 特別支援教育の充実 |
| | 224 | 学校における防災教育・
防災対策の推進 |

政策 Ⅱ-3

子どもの育ちと子育て

～子どもが豊かに育つことができる社会～

- | | | |
|-------|-----|------------------------|
| | 231 | 子どもの育ちを支える家庭・
地域づくり |
| | 232 | 子育て支援策の推進 |
| | 233 | 児童虐待の防止と社会的養護の
推進 |

政策
Ⅱ-4

スポーツの推進

～夢と感動を育む社会～

- | | | | |
|-------|----|-----|------------------|
| | 施策 | 241 | 学校スポーツと地域スポーツの推進 |
| | | 242 | 競技スポーツの推進 |

政策
Ⅱ-5

地域との連携

～誰もが魅力を感じ、活力のある地域～

- | | | | |
|-------|----|-----|-------------------|
| | 施策 | 251 | 南部地域の活性化 |
| | | 252 | 東紀州地域の活性化 |
| | | 253 | 「美し国おこし・三重」の新たな推進 |
| | | 254 | 農山漁村の振興 |
| | | 255 | 市町との連携による地域活性化 |

政策
Ⅱ-6

文化と学び

～地域の誇りと心の豊かさを育む社会～

- | | | | |
|-------|----|-----|---------|
| | 施策 | 261 | 文化の振興 |
| | | 262 | 生涯学習の振興 |

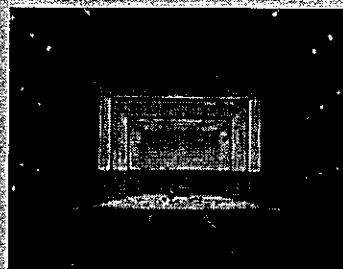
文化の振興



さまざまな主体がそれぞれの力を生かし、協力し合いながら三重の文化活動を支えており、県民の皆さんが多様な文化にふれ親しみ、文化活動への参加をととした幅広い交流が行われるとともに、歴史的・文化的資産等が地域の誇りとして、大切に守り伝えられ、活用されています。

現状と課題

- 県民一人ひとりが自ら文化芸術にふれ、学び、成果を高め合う機会や、お互いに交流し、活動の裾野を広げる機会を充実させる必要があります。
- 県民主体の文化活動を促進するとともに、文化情報の収集・保存と共有を進め、併せて効果的な情報発信を行う必要があります。
- 地域の中で発展してきた個性豊かな文化や守り伝えられてきた文化財が、地域に対する愛着や誇りを育み、地域の絆を強めるなど、人づくりや地域づくりに果たす役割が期待されています。



三重県文化会館大ホール



新県立博物館の開館に向け、総合文化センター周辺の各施設が、さまざまな主体と連携し、中核的な拠点(文化交流ゾーン^{※1})を形成することにより、県民の皆さんが、心の豊かさと安らぎを感じ、知的な刺激を受けるよう文化にふれる機会を多く提供します。

取組方向

- 文化の担い手としての県民の皆さんの創造的な活動を支援し、顕彰制度の運用や質の高い文化芸術の発表の場づくりなど、主体的な文化活動を促す環境づくりを進めます。
- 県民の皆さんが文化交流ゾーンの機能を認識し十分に活用できるよう、魅力的な情報発信および環境整備等に取り組みます。
- 県民の皆さんが地域の文化財の価値に気づき、大切に守り伝え、積極的に活用できる環境づくりを進めるとともに、歴史的・文化的資産等を生かした人づくりや地域づくりを促進します。

平成27年度末での到達目標

三重の文化や文化財が効果的に県内外へ情報発信されるとともに、それらを生かした取組が活発になり、県民の皆さんが、主体的に文化活動に参加・参画し、地域の魅力や価値を高めています。



史跡高宮跡東部整備完成予定図



県民指標

目標項目	現状値	目標値	目標項目の説明
参加した文化活動に対する満足度	60.7% (22年度)	66.0%	三重県文化会館が実施した公演事業および歴史的・文化的資産を生かしたまちづくり事業などにおけるアンケート調査で、公演やイベントの内容について、「とても満足している」と回答した人の割合

主な取組内容
(基本事業)26101
文化にふれ親しみ、創造する機会の充実

(主担当：環境生活部文化振興課)

県民一人ひとりが多様な文化にふれ親しみ、創造し、文化活動に参加することができるよう、文化活動への助成や顕彰制度の運用、文化芸術の発表の場づくりなど、多様な取組を進めます。

26102
歴史的資産等の発掘・保存・継承・活用

(主担当：教育委員会社会教育・文化財保護課)

県民の皆さんが歴史的資産等の魅力を知り、地域の誇りとして大切に守り伝えていくため、文化財等の適切な保存・継承を図るとともに、地域での活用を支援します。

県の活動指標

目標項目	現状値	目標値	目標項目の説明
文化交流ゾーンを構成する施設の利用者数	1,173,221人 (22年度)	1,360,000人	文化交流ゾーンを構成する施設である県立の図書館、博物館、美術館および三重県総合文化センターの利用者数
文化芸術情報アクセス件数	60,210件/月 (22年度)	100,000件/月	県が管理運営するインターネットのホームページ「三重の文化」への月平均アクセス数
文化財情報アクセス件数	14,208件/月 (22年度)	17,000件/月	県が管理運営するインターネットの文化財に関するホームページへの月平均アクセス数

注)1 文化交流ゾーン：新県立博物館の整備を契機として、新たに魅力あふれる「県民の学び・体験・交流の場」となるよう発展をめざす県立美術館を含めた県総合文化センター周辺地域のこと。

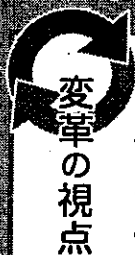
生涯学習の振興



県民の皆さんの多様な学習ニーズに応えることができる学びの場や機会が、さまざまな主体の力を合わせた活動により数多く生み出され、県民の皆さんが楽しく学びながら、自らの知識や経験を生かして積極的に活動しています。

現状と課題

- 県民の皆さんの学習ニーズは多様化・高度化しており、それぞれのライフステージにおける学習ニーズを的確に把握し、そのニーズに応じた学習機会を提供することが求められています。
- 県民一人ひとりのライフスタイルに対応した学習環境の整備や、市町や地域の活動団体等との連携など、県内のどこでも学習できる場や仕組みづくりが必要です。
- 学んだ成果が個人にとどまることなく、人づくりや地域づくりにつながるよう、活動の場の提供や情報提供の充実など、成果を生かすことができる環境づくりが求められています。
- 生涯学習の推進に重要な役割を担う社会教育においては、多様化・高度化した学習ニーズへの適切な対応が求められているほか、社会教育活動の推進にあたり、さまざまな主体との連携を図る必要があります。



生涯学習センターをはじめとする生涯学習施設の機能充実や連携強化等のこれまでの取組に加え、県民の皆さんとの「協創」により魅力的な博物館づくりを進めるとともに、公民館や図書館等の「身近な拠点」や学校、地域との連携を強化することにより、県民の皆さんが県内のどこでも学習できる環境づくりを進めます。

取組方向

- 新県立博物館の整備により三重の自然と歴史・文化について、共に学び、考えることができる場づくりを進めます。
- 市町や学校等さまざまな主体との連携により、アウトリーチ^{※1}や参加体験型学習など、さまざまな学習機会を提供します。
- 学んだ成果を地域で生かそうとする県民の皆さんに対し、学習交流の場や講師登録情報の提供を充実させるなど、新たな成果の活用場や機会を創出する取組を促進します。
- 社会教育関係者の交流の場を設け、情報共有や人材育成を図ることにより、地域における社会教育活動を促進します。

平成27年度末での到達目標

これまで自己の関心やライフスタイルにあった学習機会を得られなかった県民の皆さんが、容易に自己のニーズにあった学習情報を得ることができ、気軽に学びの場や機会を利用しています。

また、これまで学習活動を行ってきた県民の皆さんも、より高度な知識や技術を習得し、学んだ成果を生かす機会を得ています。



新県立博物館完成予定図



県民指標

目標項目	現状値	目標値	目標項目の説明
参加した学習活動に対する満足度	72.0% (22年度)	77.0%	県立の図書館、博物館、美術館、斎宮歴史博物館および生涯学習センターが実施した展覧会、講座・セミナーにおけるアンケート調査で、講座の内容等について、「満足している」と回答した人の割合

主な取組内容
(基本事業)26201
学びあう場の充実

(主担当：環境生活部文化振興課)

だれでも、いつでも、どこでも、楽しく学び続けることができ、その成果を生かすことができるよう、魅力ある展覧会・講座等の開催や講師登録情報の提供など、学習環境の充実を図ります。

26202
地域と連携した社会教育の推進

(主担当：教育委員会社会教育・文化財保護課)

地域の中核となる社会教育関係者の人材育成を行うことにより、社会教育活動を促進します。また、社会教育施設において、自然体験活動などを実施することにより、健全な青少年の育成を進めます。

県の活動指標

目標項目	現状値	目標値	目標項目の説明
県立生涯学習施設の利用者数	627,350人 (22年度)	855,000人	県立の図書館、博物館、美術館、斎宮歴史博物館、熊野少年自然の家、鈴鹿青少年センターおよび生涯学習センターの利用者数
「協創」による博物館づくりへの参画者数	231人 (22年度)	550人	新県立博物館の県民参加組織への登録者数
社会教育関係者ネットワーク会議への参加者数	—	210人	社会教育関係者(社会教育委員、関係団体、行政等)が幅広くつながる交流の場として開催するネットワーク会議への参加者数

注1 アウトリーチ：英語で「手を伸ばすこと」を意味し、生涯学習の観点では、学校や公民館、福祉施設等で出張講座や移動展示などを行うこと。

1 文化振興の意義・目的

文化振興により、

- 多様な文化にふれ親しむことが、一人ひとりの感性や創造性を高め、自己実現と成長につながる。(＝人間力の向上)
- 地域の文化が、地域のアイデンティティ(独自性・個性)を形成して地域に対する愛着や誇りを育む契機となり、地域の絆を強める。(＝地域力の向上)
- 地域の文化をまちづくりや産業振興などに生かすことで、新たな魅力や付加価値を生み出す。(＝創造力の向上)

2 文化振興を進める視点

- ① 協働(パートナーシップ)で推進する視点
- ② 誰もが文化に接し、文化活動に参加する権利を保障する視点
- ③ 人と文化の多様性を認め合う視点
- ④ ビジョン10(未来像)を共有し、評価する視点

3 重点方針と展開方向

- ・ 重点方針について、「県民にとって身近にある活動の拠点(＝「身近な拠点」)と、それを支援する専門性の高い拠点(＝「文化と知的探求の拠点」)があるという認識のもとで、県内の文化振興拠点間の連携を進めるとともに、人などソフト面から充実強化をはかります。」と述べた上で、①個々の拠点の充実強化②拠点をつなぐことによる総合的な機能強化、これらによる「文化振興の基盤づくり」に言及しています。
- ・ 「県内拠点ネットづくりに向けた展開方向」のなかでは、「県の『文化と知的探求の拠点』づくり」を掲げ、次のように述べています。

県が設置し、文化振興拠点として、特に重要と考えられる「図書館」、「博物館」、「美術館」、「文化会館」、「生涯学習センター」などについて、「文化と知的探求の拠点」の役割や特徴をふまえた機能の充実強化、連携などを進めます。

- ・ さらに、「県の『文化と知的探求の拠点』として、総合的に進める拠点づくり」として、次のように述べています。

県の各拠点が、互いの役割を明確にした上で、事業や機能面で連携することにより相乗効果を引き出し合いながら、全体として、県民の「文化と知的探求の拠点」としての機能を発揮するという視点で取組を進めます。

ア 事業連携の視点から

各拠点が、共同で事業を行うことにより、

- ・人の交流のきっかけとなり、人的ネットワークが広がる
- ・事業を一緒に行うことにより、県民にとってより幅広い知的刺激を受ける可能性が広がる

という効果があります。

イ 機能連携の視点から

機能連携とは、拠点が共通してもつ機能を具体的に発揮するにあたって、互いに連携して効果的なサービスの提供につなげることや、拠点のもつ機能を集めて全体として機能強化につなげることなどが考えられます。

例えば、図書館、博物館、美術館などのもつ情報をうまく活用するために、情報をデータベース化し、閲覧サービスに関する環境整備を行うことにより、利便性やサービスの質の向上をはかることが考えられます。

また、美術館と博物館における資料の保管の考え方など、具体的に重複する機能について、調整し、機能連携をはかることで、効率的な運営が可能になります。

ウ 共有化、共同利用の視点から

県の総合文化センターに集積している各拠点については、互いの施設・設備やノウハウなどを共同で利用するという発想を明確に拠点運営に取り入れることで、利用者に対する利便性や快適性の向上をもたらすとともに、より効率的で合理的な管理運営をはかります。

＜文化交流ゾーン部会 参考資料：「第3次三重県生涯学習振興基本計画」(H23.3)＞

1 計画期間である4年間(H23～26年度)の重点的な取組としての位置付け

- ・ 「基本計画期間である4年間の重点的な取組を『生涯学習振興の重点プロジェクト』と設定し、学びと文化によるまちづくりを進め、人と人との絆、人と地域との絆の再生をはかります。」と述べ、文化交流ゾーンについても次のように述べています。

○ 三重県総合文化センター隣接地に新県立博物館を整備し、これら周辺地域を一体的な文化交流ゾーンとして位置づけ、発展させることにより、県民が地域の自然や歴史的・文化的資産等を掘り起こし、その魅力について学び、活用できる環境をさらに充実強化します。

*文化交流ゾーン：新県立博物館の整備を契機として、「県民の学び・体験・交流を支える場」となるよう発展をめざす三重県総合文化センター周辺地域のこと。

- ・ その上で、「新県立博物館の整備を契機とした文化交流ゾーンの形成」のなかで、現状と課題、めざす姿、重点的な取組内容について、次のように述べています。

＜現状と課題＞

多様化・高度化する県民の学習ニーズや知的探究心を満たすことのできる学びの場や、新たな文化や人との出会いの機会を提供できる拠点機能が求められます。そのためには、文化・生涯学習施設それぞれの機能強化をはかるほか、専門スタッフが持っている知識や情報、ノウハウを最大限駆使した取組を行うとともに、施設間や関係機関・団体等との積極的な連携による取組を継続して行い、県内外の多くの人びとに三重の魅力を伝えることが必要です。

＜文化交流ゾーンのめざす姿＞

三重県総合文化センター周辺は「県民の学び・体験・交流を支える場」として、本県の文化・芸術・自然・歴史など多様で魅力ある素材に満ちあふれた空間になります。

すべての県民に情報を提供・発信し、子どもからお年寄りまで、誰でも気軽に訪れることができ、出会いや交流を通じて、新たな発見、さらなる学習意欲が引き出され、何度でも訪れたくなる場の形成をめざすものです。

＜重点的な取組内容＞

- ① 文化交流ゾーンの形成に向け、各施設が所蔵する資料の総合的な情報発信や活用、各施設の特徴を活かした魅力的なプログラムの提供など連携した取組を一体的に行います。
- ② 三重の自然と歴史・文化を保全・継承し、三重の人づくり、地域づくりに貢献する新県立博物館の開館に向けて、県民とともに調査研究、収集保存、活用発信等の博物館活動や運営の仕組み等を構築し、施設整備を進めます。
- ③ 三重県総合文化センターと新県立博物館を結ぶ連絡ブリッジの設置など、利用者の利便性向上に向けた環境整備を行います。

2 「施策の展開」における位置付け

- ・ 「多様な学習ニーズに対応した学びあう場の支援」として、19 の施策の方向と主な取組内容を掲げており、そのうちの1つである「こころ豊かな文化芸術活動の推進」のなかで、文化交流ゾーンに関して次のように述べています。

平成26年の新県立博物館の開館をふまえ、三重県総合文化センター周辺の各施設が集積による利点を最大限に活かして連携・協働し、アウトリーチ活動の充実や、集客機能、情報発信機能の強化に努め、文化交流ゾーンとして、より創造的・魅力的な文化にふれる機会を提供できるように取り組みます。